

第1回栄村むらづくり懇話会

—集落支援・行政部会—

【第1節 集落支援】

- ・集落の維持が課題。現在の負担率 35%というのは集落にとって負担が大きいため、軽減していただきたい。
- ・現状と課題の文章から明確な課題が見えてこない。この文章を膨らまして課題を設定するということか。
- ・集落ごとに意見が違う。たとえばボランティアの受け入れ一つ取ってみても、積極的な集落もあるが、住民だけで行いたいという消極的な集落もある。課題の設定は10年後に向けて集落全体の方向性を一致させるということか。
- ・集落では10年後という長期的なスパンの話し合いは行っていない。
- ・5年で集落は半数に減る時代。高齢化や資金不足等で集落の維持が困難になっている。
- ・林道の手入れは人手不足により維持が困難になっている。

【第2節 住民参加】

- ・広報紙をインターネットで公開しているが、そのアクセス数を知りたい。以前に比べ情報化が進んだと言ってもアクセスできる人はまだまだ限られている。お年寄りでも簡易的なタブレットで情報を入手できる環境が理想的だと思う。情報を享受できない人への対応を考えるようお願いしたい。
- ・お年寄りはインターネットを見ないとしても必要な情報は近所とのつながりなどで知っている。
- ・現状と課題に記載の情報だけでは課題設定が難しい。村は何を課題と感じているのか。インターネットを見るお年寄りが少ないからもっと見てもらう工夫をする等の具体的な課題はあるか。広聴・広報の枠があるということは村が問題意識を持っているからではないのか。
- ・月に一度民生委員の会議があり、意見を収集できる。これによって課題設定していけばよいのではないか。
- ・大雨警報等の緊急速報にて役場の対応を村のホームページにてリアルタイムで入手できるようになれば魅力的に感じる。
- ・対応状況については村のエリア別で告知すると分かりやすい。有事の際は情報が錯綜する。何を信じればいいのか分からないため、情報の順番の整理をお願いしたい。
- ・インターネットによる情報発信は村からの一方通行に感じる。双方向の情報共有が必要。
- ・村民からの意見を吸い上げられる仕組みづくりをお願いしたい。

【第3節 行政運営】

- ・医師、看護師や機械オペレーターなどの専門職員の中長期的な計画に基づく適正な職員体

制の確立とあるが、過不足の基準は何か。(定年退職の補充が難しい。)

- ・豪雪地帯なので機械オペレーターについて真剣に考えていくべき。
- ・機械オペレーターは3名を確保していきたい。定年退職を間近に控え、人材養成は不可欠。

【第4節 広域行政】

- ・広域行政と言っても津南町と十日町や飯山市など、どこのエリアに属するものか。
- ・秋山郷の消防は津南町と十日町と連携しており、先日も合同で初期消防の訓練を行っている。
- ・いずれにしても栄村にとって広域行政はなくてはならないものである。

【第5節 土地利用】

- ・山林の一部はすでに調査に着手しているものもあると思うが、いつごろ終わるのか。(栄村は90%近く山林平野のため、できる範囲で進めるが時間はかかる。)

以上